



J. FRONT RETAILING

2012年 6月15日

会社名 J. フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者
 奥 田 務
 お問合せ先 経営計画事業統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2012年5月度 J. フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	5 月 度	3 ～ 5 月 度 累 計
百貨店事業	▲ 0.3 （ 0.8 ）	3.6 （ 4.5 ）
スーパーマーケット事業	▲ 7.0	▲ 10.2
卸売事業	7.9	▲ 3.7
クレジット事業	2.0	6.6
その他事業	32.0	15.6
連 結 合 計	▲ 1.7	1.6

（注）百貨店業合計の（ ）内は博多大丸長崎店（2011年7月31日営業終了）を除く既存店ベース。

2. 売上高概況

1) 百貨店事業

- ・5月度の百貨店事業の売上高は、母の日商戦が盛り上がりを見せた婦人洋品が、帽子・パラソルなどを中心に売上を伸ばし、ラグジュアリーブランドや時計・宝飾品も好調に推移したことなどから、前年に比べて休日
が▲2日減であったものの、大丸松坂屋百貨店合計では対前年1.2%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計
では同 0.8%増となった。なお大丸松坂屋百貨店、百貨店事業ともに14ヶ月連続で前年実績を上回った。

2) スーパーマーケット事業

- ・ピーコックストアは、首都圏店舗を中心に競合激化が続いたことに加え、閉鎖店舗（みさと店など計3店舗
および1事業所）の影響もあり対前年 ▲7.0%減となった。地区別では、首都圏が対前年 ▲8.6%減、関西
地区が同 ▲3.0%減、中部地区が同 ▲6.3%減であった。

3) その他

- ・卸売事業の大丸興業は、金属樹脂加工品、化学品などの好調により対前年7.9%増となった。
- ・クレジット事業のJFRカードは、加盟店手数料収入が好調であったことなどにより対前年2.0%増となった。
- ・その他事業は、名古屋店、神戸店の改装工事などで大幅増となったJ.フロント建装が牽引した。

お問合せ先 J. フロント リテイリング株式会社 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178
 FAX 03-6674-7565

2012年5月度 百貨店事業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	5 月 度		3 ～ 5 月 度 累 計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心斎橋店	2.2	9.1	0.7	5.5
大丸 梅田店	▲2.8	▲17.5	7.9	▲0.3
大丸 東京店	▲0.5	3.2	19.6	19.8
大丸 ららぽーと横浜店	▲10.4	▲7.5	1.2	2.8
大丸 浦和パルコ店	▲4.0	1.0	5.7	10.2
大丸 京都店	1.0	1.4	2.4	1.8
大丸 山科店	▲2.6	▲2.8	▲3.2	▲3.8
大丸 神戸店	10.6	13.7	5.3	6.4
大丸 新長田店	2.8	1.3	▲0.3	▲2.6
大丸 須磨店	0.7	▲1.2	0.1	▲2.4
大丸 芦屋店	▲2.8	▲6.2	▲1.3	▲6.9
大丸 札幌店	0.1	▲1.3	4.2	1.0
松坂屋 名古屋店	2.5	45.8	2.2	30.7
松坂屋 上野店	▲8.0	0.7	9.2	8.9
松坂屋 静岡店	3.0	9.5	3.4	12.4
松坂屋 銀座店	2.3	10.6	12.7	30.7
松坂屋 高槻店	4.6	▲1.7	0.7	▲1.4
松坂屋 豊田店	1.4	4.1	3.4	3.5
大丸松坂屋百貨店合計	1.2	1.1	4.9	6.4
博多大丸	0.2	▲1.4	3.1	0.4
下関大丸	▲5.2	▲9.6	▲0.8	▲5.6
高知大丸	▲3.2	▲5.6	0.0	3.6
百貨店事業合計	0.8	－	4.5	－

（注）博多大丸および百貨店事業合計の前年は、博多大丸長崎店（2011年7月31日営業終了）を除く。

前年に博多大丸長崎店を含めた5月度の博多大丸合計は対前年▲12.6%減、百貨店事業合計は同▲0.3%減。3～5月度累計は、博多大丸合計同▲7.3%減、百貨店事業合計同3.6%増。

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	5 月 度	3 ～ 5 月 度 累 計
紳士服・洋品	0.5	5.9
婦人服・洋品	4.0	8.1
子供服・洋品	▲1.7	1.8
その他の衣料品	9.7	6.5
衣料品計	3.2	7.2
身 回 品	▲2.2	1.2
化粧品	6.6	6.7
美術・宝飾・貴金属	4.3	7.4
その他雑貨	▲20.3	▲11.6
雑 貨 計	3.2	5.3
家 具	▲14.2	▲12.1
家 電	28.0	20.4
その他の家庭用品	4.2	7.3
家庭用品計	0.2	2.6
生 鮮	▲0.6	▲0.2
菓 子	2.1	6.7
惣 菜	0.5	3.1
その他食料品	6.9	2.4
食料品計	2.0	3.5
食堂・喫茶	▲0.8	8.8
サービス	▲17.2	▲13.2
そ の 他	▲10.8	0.5
合 計	1.2	4.9

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ブラウス、ワンピース、帽子など初夏のファッションが活発に動き、ラグジュアリーブランドも全般に好調で、特に名古屋店は改装効果が寄与し大幅増となった。紳士服・洋品は、クールビズ需要によりジャケットやスラックスの動きがよかった。身回品は、アクセサリやハンドバッグは前年を上回ったが、婦人靴が苦戦した。雑貨は、化粧品が売上を伸ばし、美術・宝飾は、宝石や高級時計などのお得意様向け催事が盛況であった。食料品は、神戸店が改装効果で3割増となるなど好調を持続した。